

NEWS RELEASE

動物用デジタル X 線画像診断システムの新モデル

ディーアール フィット ブイ

「FUJIFILM D R Fit V」 新発売

2026 年 7 月 1 日

富士フイルム VET システムズ株式会社

富士フイルム株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長・CEO：後藤 禎一）は、動物用 X 線画像診断システム「FUJIFILM DR Fit V（ディーアール フィット ブイ）^{※1}」を、富士フイルム VET システムズ株式会社（本社：東京都三鷹市、代表取締役社長：牧野 純一）を通じて 2026 年 7 月 1 日より発売します。



動物用 X 線画像診断システム「FUJIFILM DR Fit V」

今回発売する「FUJIFILM DR Fit V」は、動物医療において、動物の臓器や骨など多様な部位の観察・診断に用いられる X 線画像診断システムです。富士フイルムは FCR の発売以来、長年にわたりデジタル X 線機器を提供し、診療の高度化へ貢献してまいりました。「FUJIFILM DR Fit V」は DR として 4 機種目となり、富士フイルムが長年培ってきた画像処理技術を活用しているほか、X 線照射面側にセンサーを配置し、X 線の照射面側で X 線から変換された光信号を読み取る当社独自方式「ISS（Irradiation Side Sampling）方式^{※2}」を採用。X 線信号の散乱や減衰を抑制し、FCR システムと比較して少ない X 線量でも鮮明でシャープな画像生成が可能です。さらに、ノイズ低減回路の搭載により低濃度領域における画像の粒状性を抑制し、よりクリアな診断画像を実現します。

また、本製品には、X 線の照射を検出器側で自動検知する機能である AED（Automatic Exposure

Detection) 技術を採用しています。AED 技術の搭載により、X 線の照射開始を FPD パネルが自動で検出可能。X 線の検出から画像生成までの一連のプロセスを自動化し、X 線発生装置と DR 電源ユニット間の同期接続が不要になります。

操作面においては、X 線画像の取得・表示・管理を行う制御装置「V Station T^{※3}」との連携により、撮影後のスムーズな画像確認やデータ管理を実現します。加えて、撮影した画像と「V Station T」に保存されている過去の症例画像を容易に比較可能です。また、「V Station T」を超音波画像診断装置や内視鏡システムなどと連携させることで、医療現場において撮影されたさまざまな医用画像を一元管理し、スムーズな読影や院内共有を実現します。



ISS (Irradiation Side Sampling) 方式

今後も当社は、革新的な製品開発を通じて動物医療現場の多様なニーズに応え、動物の健康維持および増進に貢献していきます。

※1 販売名：デジタルラジオグラフィ DR-ID 1280 V

届出番号：8 動薬第 189 号

※2 X 線照射面側に光センサー（TFT）を配置し X 線信号を読み取る方式。

※3 富士コンピューテッドラジオグラフィ CR-IR392V 型（届出番号：28 動薬第 706 号）の付属品の画像処理ソフトウェア [CR-IR392VCL]

接続可能な「V Station T」のバージョン、OS、ハードウェア構成につきましては販売店までご相談ください。

本件に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

富士フイルム VET システムズ株式会社
営業推進本部 画像診断事業部 MS 推進グループ

メールアドレス：

ogd-176eh_es_ms@fujifilm.com